



カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852-8113
長崎市上野町 10-34
カトリックセンター内
Tel. 095-843-3869
Fax 095-843-3417
振替口座 01880-5-2699
発行人
山田 良 秋
印刷所
株式会社 藤木博英社

教皇さまの意向

・宣教
司祭が、簡素で謙遜な生活を通して最も貧しい人々と積極的に連帯できるようにすべての人が幸福に生きる権利が保障され、差別のない社会を実現できるように

・日本
音化推進、下山盛朗(典礼)、山田良秋(広報)、岡秋美(召命)、久志利津男(長崎中地区長)、葛嶋秀信(長崎南地区長、女性部担当)、山内実(佐世保地区長)、山村憲一(平戸地区長)、眞浦健吾(上五島地区長)、中村満(下五島地区長)、永谷忠治(平戸)、増崎勉(上五島)、入口正雄(下五島)、森田優子(長崎中女性部)、山口登志枝(長崎南女性部)、相川照美(佐世保女性部)、松山弥生(平戸女性部)、生田幸子(上五島女性部)、川口秀子(下五島女性部)、村田智恵子(修女連)

教区評議会総会開催

2019 年度教区の基本方針を確認

令和元年に沸き立つ連休の中、5月3日(金)、2019 年度総会をカトリックセンターで開催した。総会では、会長の高見三明大司教が、守る信仰から、分かち合い・伝える信仰を生きるために、もう一度教区シノドス提言を見直すこと、また教区の世界遺産登録や教皇訪日をしつかりと福音宣教につなげようといさ

つし、前年度の活動・決算、本年度の予算が審議され、承認された。その後、教区の基本方針活動として①「ミゼリコルディア長崎」から地域に根ざしたボランティア・ネットワークづくりの基本理念と活動計画、②「小共同体づくり」からも具体的な提案が評議会に示された。長崎教会管区災害支援室か

らは九州・沖縄の教会と連携するための、ボランティアベーススタッフ養成について報告された。また、教皇訪日長崎実行委員会の立ち上げの経緯とその概要が説明され、任命書が手渡された。最後に「宣教のための特別月間」に向けて、各小教区の取り組みへの説明があり、総会を終えた。

浦上四番崩れ
乙女峠まつりに参加して

津和野で聖母行列とミサ



去る5月3日(金)早朝5時、浦上教会主任の久志利津男神父様はじめ浦上信徒ら総勢80人は「乙女峠まつり」に参加

起こり、翌68年、浦上村民3400人近くが20藩22カ所に流配され、説得や拷問などで改宗を強いられた。「乙女峠まつり」はこれら津和野藩に送られた流配者を顕彰する行事である。10時過ぎに津和野に到着したが、教会ではすでに出発式が行われていた。乙女峠までの約2kmの道のりを、全国から集まった2000人程の信者と共にロザリオを唱えながら歩いた。



参加者が告げられた。長崎大司教区代表として、久志神父様が参加されていることも紹介された。続いて、大塚司教様は説教の中で「浦上信徒は自ら進んでキリシタンであることを申し出、信仰を守り通すことにより、神の手の中に自分たちの命を託しました。私たちはこのことを記念して列聖運動を始めます」

教皇様の日本への思いは

過去の発言とメッセージ

5月末の時点で、教皇フランシスコの訪日に関するバチカンの正式発表はまだ何もないが、教皇がこれまで折に触れ訪日の意向を示されているだけに、期待は現実味を帯びて膨らむ。テレビや新聞など一般の報道においても、これに関するニュースが取り沙汰され訪日が決定しているかのような意識が働く。正式発表を心待ちにしながら、また教皇の日本への思いを感じとりながら、これまでの発言と2013年教皇就任以降のメッセージを、本紙でいくつか紹介したい。(広報)

教皇就任以降、日本に関するメッセージ

(一部のみ。カトリック新聞から抜粋)

日本のキリシタンを模範に

2014 年 1 月 15 日バチカンでの一般謁見で、教皇は洗礼の重要性に関し 17 世紀前半の日本のキリスト者の体験をあげて話した。「ひそかにではあっても、(キリシタンたちは) 共同体の強い生命力を保ち続けました。洗礼が彼らをキリストのうちに一つのからだにしたからです。彼らは孤立し、隠れていたのです。それでも彼らは絶えず、神の民、教会の一員だったのです。私たちは、この歴史から多くを学ぶことができます」

人々の証言を聞くことは必要不可欠

2017 年 11 月 10 日バチカンの「人間開発のための部署」主催の会議で、教皇は参加者たちに「日本の被爆者や核実験で被害を受けた人々の証言を聞くことは『必要不可欠』であり、その預言的な声が、『とりわけ次世代に向けての警鐘』として響くだろう」と強調。会議には、日本原水爆被害者団体協議会(被団協)の事務局関係者も長崎での被爆体験などについて演説するために招かれていた。

将来に希望を持っていけば世界を変えることができる

2018 年 12 月 18 日バチカンと東京を映像回線をつなぎ、教皇と日本の若者たちが対話した。教皇は「自分の国」「家族」「人間」それぞれのルーツ(起源)を知らない若者が増えていくことを心配し、次のように答えた。「ルーツ(根っこ)を見つけないと、花が咲きません。ルーツは自分を支えるものです。若者たちが過去に悪い記憶(ルーツ)を持ちながら、現在の挑戦に立ち向かい、将来に希望を持っていけば世界を変えることができます」

司教の辞任

2019 年 4 月 27 日(土) ローマ時間正午(日本時間同日 19 時)、次の司教人事が発表された。

1. フランシスコ教皇は、福岡教区宮原良治司教の辞任願いを受理された。
2. 同時に、空位期間のための使徒座管理区長として、大名町司教座教会主任の杉原寛信神父を任命された。

人事異動・任命

(一) 内は前任地

▼イエズス会(4月22日付)
泉 類治師
二十六聖人修道院(福岡修道院)

ほしかげ

5 月から 6 月へ。「聖母月」が終わり、「イエスの心の月」を迎えよう。5 月が「聖母月」であると知っている方は多いと思いますが、6 月が「イエスの心の月」であると知っている方は少ないのではないのでしょうか。その理由は、教える側の司祭自身が十分に伝えきれていないということなのかもしれません。聖母マリアほど「イエスの心」を深く理解し実行された方はいないでしょう。▲ピオ 12 世教皇は、「受肉したみことばの心臓は、当然、神である救い主が永遠の父とすべての人々を絶え間なく愛した三重の愛と主要ななるしまたは象徴と考えられる。すなわち、キリストの心臓は、父と聖霊と交わる神の愛の象徴である。しかし、この愛は、人となつたみことばのほかに、もうい体を通して、われわれに表された」と教える(Hauretis aquas... 20. 3924) ▲イエスのみ心、それは愛する心。イエスのみ心、それはゆるす心。イエスのみ心、それは祈る心。イエスのみ心、それは自分を与える心。イエスのみ心、それは平和の心。私たちは、「イエスのみ心」を自分の心として生きることが求められている。▲あまり唱えなくなった祈りがある。それは、「イエスのみ心の連祷」です。今月、家族と一緒に唱えたいかがでしょうか。「仁慈と愛にみち満てるイエスのみ心われらをあわれみ給え」(武)

『喜びがなければ、だれの心も引き寄せられない』 教皇フランシスコ

宣教のための特別月間を過ごす ⑥

喜びを共に生き、伝える教区へ

―十月や宣教司牧刷新す―

大阪教区大司教・枢機卿 前田万葉

はじめに

皆さまご存知のように、教皇フランシスコは、今年の10月を、「福音宣教のための特別月間」とすることを宣言されました。全世界の教会が「喜びを特徴とする福音宣教の新しい旅の段階」に向かつていくよう呼びかけています。

日本司教団も、いくつかの事例を参考に、創造的な取り組みを始めるよう、呼びかけています。長崎教区はすでに、教区シノドスを開き、「神のいつくしみを共に生き、伝える」という目標を立てて、取り組み始めておられるようです。すでに始められている長崎教区の取り組みと、日本司教団の呼びかけを参考にしながら、私の長崎教区愛をいくつか綴ってみたいと思います。教皇フランシスコと共に、「長崎教区の信仰と福音宣教・司牧の刷新」を祈りながら。

祈りの長崎を大切に

教皇フランシスコは、福音宣教・司牧者となるために、日々祈ることを勧めておられます。特に、聖霊降臨の出来事を思い起こし、聖霊こそが「福音を宣教する教会の魂」（福音の喜び261）であるとして、日々聖霊に祈ることを勧めておられます。聖霊こそが、「教会の生命と一致の源泉」であり、「教会活動の原動力」であるからです。長崎では、伝統的に何かを始めるときには、「聖霊来てください」と祈っていました。十字架のしるしをしていました。食前食後の祈りをしていました。長崎教区を離れて、このような祈りの

尊さをかみしめています。日本カトリック司教団も、「ともに喜びをもつて福音を伝えるための祈り」を作って、祈るようにと勧めています。長崎には、聖母マリアに取り次ぎを祈る良い伝統も受け継がれてきました。教皇フランシスコは、聖霊降臨の次の日を「教会の母聖マリア」の日として定めて、この良き伝統をも推奨しています。日本司教団も「地元の観想修道会の兄弟姉妹の協力を願いつつ、全教区で、祈りによって宣教活動を支えていきましよう」と呼びかけています。私の出身教会の仲知教会はじめ、長崎教区のたくさんの教会、修道者、信者さんたちの祈りが、教区を出た私たちの宣教・司牧さへも支えてくださっています。大阪教区も、去年から再宣教150周年を祝い、今年10月の宣教特別月間を契機に、「聖マリアの汚れないみ心に大阪教区を捧げる祈り」を作り、全教区をあげて、福音宣教刷新のために祈るようになりました。祈る長崎教区を証しし、いつまでも他教区の模範であることを期待いたしております。

感謝と喜びを伝えよう

感謝は、喜びをもたらし、生きる力になります。そして笑顔になります。「笑顔は自分を変える、相手を変える、運命を変える」と言われます。「天の父は、御独り子と与えるほど私たちを大切にしてくださいました。その御独り子キリストは、神でありながらも人間となつてくださった。死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで私たちを大切にしてくださいました」のです。しかも、死で終わるのではなく、自ら復活し、私

たちに永遠の生命への復活を保証してくださいました。ここに感謝と笑顔・喜びの根源があります。この喜びを伝え、分かち合うことが福音宣教なのです。私は、ある青年の「私は教会に楽しい喜びがあることを知り、教会に行くようになりました。しかし、今の教会には喜びを感じない」といった言葉が、ずっと気になっています。

教皇様も、「喜びがなければ、だれの心も引き寄せられない」と説いています。そして日本司教団も「福音宣教の第一の動機、それはわたしたちが受けているイエスからの愛です。イエスの愛を受け、その救いの喜びに生かされるために、わたしたちは、秘跡、特にミサにおけるイエスとの人格的な出会いの恵みを大切にしましょう。また、聖書通読、みことばの分かち合い、黙想会、聖体礼拝、聖体訪問なども、そのための有益な助けです。さらに、イエスとの人格的な出会いの喜びを、日常生活の中で神と隣人への愛として広げていくために、わたしたちは出向いて社会の福音化に奉仕しましょう」と呼びかけています。私はこれに加えて、ロザリオなど聖母マリアへの信心をも付け加えたいと思います。

潜伏キリシタン関連遺産の
宣教・司牧活用を

日本の教会は、聖フランシスコ・ザビエルによる宣教開始以来、日本二十六聖人殉教者をはじめ、列聖・列福された多数の信仰的模範者をいただいています。そして、長崎は、潜伏キリシタン関連遺産の世界遺産登録が実現いたしました。また、信徒発見、浦上四番崩れ

と流配、五島崩れなどの150年を記念してきました。そして、津和野の証し人37名の列福列聖に向けた動きも始まっています。なぜ、250年にも及ぶ禁教時代を潜伏し、信仰を伝えて来ることができたかを検証し、わたしたちの宣教・司牧活動の模範と励みにいたしましょう。

また、世界遺産巡礼や観光に訪れる人たちに、差別や偏見の虚しさ、人間尊重や信仰の自由の大切さを説くチャンスといたしましょう。何よりも、命の大切さと生きることの意味を説くという使命を自覚することが大切だと思います。

また、地域の住民たちとの救済と和解、助け合いの喜びを分かち合うことは、何よりの世界遺産活用宣教だと思っています。それに、まだ残る隠れキリシタンの方々との寄り添いや対話の促進と一致の機会ともなれるでしょう。

研究や養成

いくつかの長崎愛を綴ってみました。が、宣教・司牧の刷新のためには、やはりその背景を研修し、皆が宣教・司牧者となれるように養成されなければなりません。確かに、日本司教団が言う「第二バチカン公会議後の文書や歴代教皇たちの文書、そして日本の『福音宣教推進全国会議（NICE）I（1987年）・II（1993年）』の提言を再読し、それ以降の宣教活動のあり方を振り返ることも有益」です。

長崎は、前述したように、潜伏時代やその後の貴重な模範があります。それぞれ

結び

の小城や家族の歴史、迫害と殉教、信仰伝達、苦難の教会建設や差別・偏見の体験などを知り、分かち合い、そこから模範を探し、励みや刷新につなげることだと思います。もし、いつまでも被迫害者根性的な生き方があったら刷新はできません。日本司教団も、「わたしたちが現在、置かれてる文化、歴史、社会などの背景を考慮しながら、新しい視点で、日本の人々にキリスト教の救いの意味をどのように解き明かすことができるのかについて、ともに考え、分かち合いましよう」と呼びかけています。長崎教区ですでに始まっている学び合い、舞台化してまでの信仰伝達が実を結びますように。そして、司祭だけでなく修道者、信徒一人ひとりが、訪れる巡礼者や観光客への宣教者となれますように祈ります。

教皇フランシスコは11月に日本を訪問する意向を示されています。特に、長崎から「核兵器廃絶」の強いメッセージを発したいとおっしゃいました。また、長崎の潜伏キリシタンのことにも触れていましたから、長崎の特別な宣教魂を奮い立たせる訪日、訪崎になることと思います。教皇のご期待に沿えるよう、長崎ならではの信仰刷新、宣教・司牧刷新が実現できますように。潜伏キリシタンの子孫として、「新たな熱意、手段、表現をもって、長崎で、そして、長崎からの宣教者となれますように。」

『令和へと長崎教区風光る』。

ともに喜びをもって福音を伝えるための祈り

喜びの源である神よ、
あなたは、御子キリストを遣わし、
その受難と復活を通して、救いに導く喜びの福音を
この世にもたらしてくださいました。
また、あなたは、キリストの後に従う働き手を通して、
諸国の民に福音を告げ知らせ、どんな逆境にあっても、
キリストを信じる人々の喜びを支えてくださいました。
さまざまな困難に直面している現代社会の中で、
人々の救いに奉仕する教会を顧みてください。
キリストの救いの喜びを
新たな熱意、手段、表現をもって伝えることができるよう、
わたしたちを聖霊によって強めてください。
わたしたちの主イエス・キリストによって。
アーメン。

2019年3月17日
日本カトリック司教協議会

人と人の絆を大切に・ご葬儀のご相談は

メモリアルホール・典礼会館・中央斎場

長崎・諫早・大村・佐世保

株式会社メモリアル 事務局 ベトロ 田川慶司

0120-44-6666

石碑
文字彫刻
墓地工事
リフォーム
墓地分譲

なが さき せき ちょう
長崎石彫

ヨゼフ 岩永 博明
☎(095)862-2469
長崎市梁川町6-17 岩永ビル

日本のカトリック教会唯一の週刊全国紙

「カトリック新聞」を読んでみませんか？

・教皇メッセージ、バチカン情報 ・日本司教団のメッセージ、動き
・日本各地と世界の教会ニュース ・主日の福音解説 ・さまざまな信仰体験
・読者の声など カトリックの“今”を伝えます。



共に生きる カトリック新聞

ご購入のお申し込みは



03-5632-4432 <http://www.cwjpn.com/cwjpn/> 週刊(日曜日発行)／1年9,744円 半年4,872円(国内1部、税・送料込)

世界平和を聖母に願う

下五島で井持浦ルルド祭



ルルド祭は、日本で最初につくられたといわれる井持浦教会のルルドの聖母マリア像をよりいっそう記念するために 1993 年から開催され、今年で 27 回目となりました。下五島地区の信者さんたちが井持浦教会に集まり、その人数は 320 人ぐらいいました。

貿易戦争、核ミサイルの脅威、国家経済の危機、難民に関わることなどさまざまな問題、世界平和のために今でも心と体をもって活動して下さる教皇様の訪日が期待される中、下五島地区では 5 月 12 日 (日)、教皇様が伝える世界平和を願って井持浦ルルド祭が開催されました。

最初に聖母像に向け、子どもたちによって聖母マリアを象徴するバラの花びらがまかれ、そして世界平和の意向を担当。

神への真の愛ささげて

雲仙殉教祭に 1100 人集う



雲仙殉教祭が 5 月 19 日 (日) 13 時から雲仙メモリアルホールで行われ、各地から集まった約 1100 人が、高見三明大司教の主司式、25 人以上の司祭団の共同司式のもと、殉教者の生涯と信仰の証しを記念し、祈りをささげた。長崎大司教区主催、長崎北地区評議会担当。

ミサに先立ち、黒崎・出津の両小教区の子どもたちとシスターたちが合同で、海外の主任司祭だったド・ロ神父や信仰を伝えた殉教者たちに関する歌や話の朗読を披露し、参加者は皆聴き入っていた。続くミサの初めには高見大司教が、殉教者が拷問を受けた雲仙地獄からくみ上げた温泉水を祝福し、参列者に灌水した。説教師を務めた山脇守師 (長崎北地区長) は、「殉教者たちは神への真の愛をささげていった。共に祈った。」

子どもと女性の 人権相談室

最初のご相談はお電話でお願いいたします。詳細は各小教区に配布されているポスターをご覧ください。
場所 カトリックセンター別館
連絡先 095・865・7829
時間 月・金 10 時～16 時
* 休日 (祝日・教区本部事務局休業日など) を除く。不在時は留守番電話対応。
相談室室長 マリア 福田真理

歴史と信仰に触れる

青年巡礼ウォーク in 上五島

毎年ゴールデンウィークに実施されている「青年のための巡礼ウォーク」(教区召命委員会主催) が、今年は上五島で行われた。参加青年 11 人、同伴・協力司祭 13 人は 4 月 29 日 (月) あいにくの荒天の中、鯛之浦教会に集合し、予定を変更して地区司祭が運転するワゴン車に乗り、仲間教会、曾根教会、青砂ヶ浦教会を巡礼、主任司祭からガイドを受けた。午後 5 時から宿泊先の丸尾教会信徒の盛大な歓迎と、もてなしを受け、五島の海の幸を、ごちそうになり、参加者・司祭・丸尾教会信徒と親睦を深めた。



翌 30 日 (火) 午前 8 時から、頭ヶ島教会で召命を求めて同伴司祭 13 人の共同司式ミサをささげ、帰路有川港に向け 2 時間歩いた。頭ヶ島教会の信徒に見送られて休憩を入りながら歩く頃には雨も上がり、無事巡礼ウォークを行うことができた。



自分たちの所属する小教区とは違う歴史と信徒たちの信仰に触れ、青年たちは思いに残る絆を深めることができた。また、普段は司祭と話をする機会も少ないが話をし、巡礼ウォークのたびに各地の教会と歴史を学び、肌で感じる信仰の恵みを分かち合うことで、参加者それぞれの信仰を見つめることができた。上五島地区司祭団、訪問先の教会と、特に丸尾小教区の信徒の心のこもった歓迎とてなしたに、参加者のみならず同伴司祭・スタッフ一同心から感謝したい。
実行委員長 山本一郎 (木鉢教会主任)

ソフトボール大会

6 教区の司教・司祭らが交流

5 月 13 日 (月)、西日本司祭団ソフトボール大会が長崎大学医学部グラウンドで行われた。今回の大会には大阪・広島・高松・福岡・大分・長崎の各教区から、司教や司祭たち約 90 人が集まり、それぞれの団結力を示すべく熱い戦いを繰り広げた。澄み渡った青空のもと、熟練者たちによる



ハッスルプレーや若手たちの「付度」プレーに対し大きな声援と温かなやじが飛び交い、試合は大いに盛り上がった。真剣勝負に汗を流した後は互いの健闘をたたえ合いながら、教区の違いを超えて司祭同士の交流を深めた。参加した司祭の 1 人は、「大きなけがをする人もなく無事に終えることができたことに感謝。今大会の会場準備、進行、片付けを浦上教会の壮年会が協力してくださり、昼食を長崎北地区女性部が準備してくださった。

訂正

二〇一九年度「カトリック教会祝日表」
・27 頁の「性虐待被害者のための祈りと償いの日」は 3 月 22 日 (日) ではなく、正しくは四旬節第 2 金曜日の 3 月 13 日 (金)。
・41 頁の「日本カトリック神学院福岡キャンパス」の名称は、「福岡カトリック神学院」が正。

2019 年度 行事予定

月日	行事	備考
5 月 2 日 (木)	第 142 回クルシリヨ	立山修道院 (5/5 まで)
3 日 (金)	教区評議会総会	カトリックセンター
12 日 (日)	井持浦ルルド祭	井持浦
19 日 (日)	雲仙殉教祭	雲仙メモリアルホール
6 月 1 日 (土)	教皇様についての講演会	カトリックセンター
5 日 (水)	教区結婚講座 夏コース開講	毎週水 (7/10 まで)
9 日 (日)	教区家庭委員会南地区講演会	カトリックセンター
11 日 (火)	教区司祭黙想会	大司教館 (6/14 まで)
16 日 (日)	公開聖書講座	カトリックセンター
	第 3 回高見杯青年ミニバレー大会	大司教館体育館
7 月 7 日 (日)	教区家庭委員会北地区 DVD 鑑賞会	カトリックセンター
8 月 5 日 (月)	広島ピース・スタディー	8/6 まで
8 日 (木)	原爆殉難者慰霊祭	爆心地公園
9 日 (金)	平和祈願祭 (長崎)	浦上教会・平和公園
15 日 (木)	聖母平和祈願祭 (佐世保)	アルカス SASEBO
	平戸ザビエル祭 (第一部・記念ミサ)	平戸教会
17 日 (土)	沖縄平和学習	8/20 まで
24 日 (土)	九州青年キャンプ	西海市 (8/25 まで)
9 月 8 日 (日)	大村殉教祭	シーハットおおむら
	十字架山殉教祭	長崎・十字架山
15 日 (日)	福者カミロ・コンスタンツォ殉教祭	焼罪史跡公園
16 日 (月)	公開信仰養成講座	カトリックセンター
22 日 (日)	聖トマス西と十五殉教者祭	中町教会
	平戸ザビエル祭 (第二部・信徒発見劇)	平戸文化センター
23 日 (月)	現役カテキスタのための研修会	カトリックセンター
10 月 13 日 (日)	島原・天草殉教祭 ― 福者記念ミサ	南島原・原城跡
27 日 (日)	牢屋の窄殉教祭	久賀・牢屋の窄
11 月 1 日 (金)	司教座聖堂献堂記念日・記念ミサ	浦上教会
3 日 (日)	長崎青年の日	長崎市 (11/4 まで)
10 日 (日)	黒瀬の辻殉教祭	生月・クルスの丘公園
17 日 (日)	教区主催追悼ミサ	中町教会
12 月 7 日 (土)	日本カテキスタ会主催公開講座	長崎市 (12/8 まで)
1 月 19 日 (日)	キリスト教一致祈祷集会	
2 月 2 日 (日)	日本二十六聖人殉教記念ミサ	西坂公園
3 日 (月)	司祭研修会	大司教館
5 日 (水)	日本二十六聖人殉教者記念日	
	教区結婚講座 冬コース開講	毎週水 (3/4 まで)
9 日 (日)	教区家庭委員会南地区映画上映会	カトリックセンター
3 月 1 日 (日)	教区青年黙想会	大司教館
17 日 (火)	日本の信徒発見の聖母記念ミサ	大浦天主堂
20 日 (金)	司祭助祭叙階式	浦上教会

川上進 神父

(神言修道会)



4 月 21 日、聖フランシスコ病院で逝去。77 歳。1941 年 9 月 28 日長

崎県 (五島) 生まれ。65 年 3 月 19 日初誓願宣立。70 年 10 月 10 日司祭叙階。71 年長崎南山中学・高等学校教諭、聖ルドヴィコ神学院指導司祭、78 年名古屋神学院指導司祭、81 年秋田教会助任、84 年長崎南山中学・高等学校校長、97 年西町教会主任、長崎南山第二学園理

事長、2009 年からは長崎南山学園理事長を務めた。初任地聖ルドヴィコ神学院の台所改修、体育館建設を手始めに、長崎教区においては西町教会、南山幼稚園、長崎南山学園においては施設整備改善にその才能を発揮した。また、「旅人を手厚くもてなしなさい」という聖パウロの言葉を文字通り実践し、出会う一人ひとりを手厚くもてなす奉仕の精神に徹した修道司祭として捧げ尽くした。葬儀ミサ・告別式は 4 月 24 日、同会日本管区のジェブーラ・エウゲニウス管区長の司式により西町教会で行われた。

外国人信徒との関わり大切に

入管法改正を機に考える

日本カトリック
難民移住移動者委員会
長崎管区代表 川口昭人

昨年、国会で可決した入管法改正案がこの春施行されました。幅広く外国人労働者を受け入れるということで注目を集めている折、長崎教区もさらに多くの外国人の方々が在住することは予想され、今回このことに関する原稿を依頼され、この機会を頂いたことを感謝します。

現場の実情

私見になりますが、この春に改正された入管法の施行に関し、官邸の意向を現場の入管で潤滑に対応できていない



教会に集う外国人と日本人

状況が見受けられるのか、気づいた人が情報を寄せてくれることで問題改善につながるのです。ただ、今の教会に於いては、外国籍の方々への配慮は今よりも以前の方がもっと積極

的だったように見えることを少々案じています。

外国人に関する諸問題
教会の取り組み

私は教会内に関しては、日本カトリック難民移住移動者委員会として外国籍の方々と接する機会を頂いています。が、いわゆる活動的には「後発隊」なので先人の歩みも確認します。さまざまな関係性を掘り下げてみると大切な関わりにも気づかれます。時代の流れにおいて、日本の教会も外国人の方々と接して多くの課題を国にも教会内にも発信してきました。

1960年代に日本司教団はバチカンの意向で難民移住協議会を設立。その後、表面には外国籍の信徒の姿を見かけてもミサを共にするだけで、それ以上の関わりをほとんど持たない日本の教会共同体の雰囲気は続きます。それでも、マイノリティーに積極的に関わる少数の司祭・修道士・信徒の働きによって、大きな事例として報告され国の対応に影響を与えた案件が生

じてきたのを感じます。振り返れば、1970年代からのポトピーブル難民(ここでは故・古川武信師に敬意を表したいです)は今も入管の対応が宗教者に配慮があるのは師のおかげと言っているでしょう。80年代もその後も強制労働にわたる「徴用」の時代とニューカマーと呼ばれる在日コリアン問題、指紋押捺を強制した外登法(外国人登録法)、飲み屋のエンターテインメントで踊る女性と子どもたち(人身売買)への対応。90年代も女性と子どもを守る有志によるDVシエルター。子どもは日本で生まれながらも、母親に在留権がなく本国に強制送還される現状を「730通達」の法改正まで支援した時代。2008年のリーマンショック後、日本人の自死も多かったですが、外国籍の方々も理不尽な解雇と強制送還があり、現在も外国人実習生に関連する人権問題は、皆さんも身近に感じ取れるニュースではないでしょうか。

古くから問題は後を絶たないのです。まずは、身近にはミサの後、外国籍の方々へ声を掛けることで改善されることが多いにあるのです。

新刊良書

★橋をつくるために 現代世界の諸問題をめぐる対話
著者 教皇フランシスコ
ドミニク・ヴォルトン
訳者 戸口民也



戦争、貧困、環境破壊、難民、文化的アイデンティティと伝統、異なる者同士のコミュニケーション、

そして教会のあり方などのテーマをめぐり、フランスの著名な社会学者が1年間12回にわたって教皇に行ったロングインタビュー。「イエス・キリストにならって、橋を架けねばなりません。イエス・キリストは、父なる神から『Pontifex』―橋をつくる人―となるために遣わされました。わたしの考えでは、まさにそこに教会の政治活動の基本があります。」(教皇の言葉本書より)

2002年に彼を列聖した教皇ヨハネ・パウロ2世が「日常生活の聖人」と称した聖ホセマリア。日常生活を通して自分と周りの人々を聖化するという精神を実践し、オプス・デイを創立した神父の小伝。ドン・ボスコ社、税別700円。



★聖ホセマリア・エスクリバー 天と地をつなぐ道
著者 中井俊巳

関わりを持つことが大切

彼らと接していく中で思うのは、未知の国で生活する人々の苦勞です。言葉も生活習慣も分からぬまま、この国で働けばいいと紹介され期待を持ち、実際に来てみるととんでもなかった。五島に逃れたキリシタン時代の人々のことを話すと共感する人がいます。彼らは日本であつた境遇を感じても、主に信頼してミサに来て祈るのです。

現在、多くの外国籍の聖職者、修道士も日本に滞在しています。そこに甘んじているのではなく、教区民が少しの関わりでも持つことが大切です。

長崎の教会では、日本人同士であつても、新しく移籍した信徒がミサに来ててもなかなか声を掛け合いません。聖堂で転入者を紹介しても同様です。でも、新しく来た信徒は声を掛けられることでその教会に安堵感を持ちます。外国人にとつてはなおさらでしょう。

この点、私たち長崎の信者はまだ外国人にとつてだけでなく、関わりに閉鎖的な教会であることを意識した方がいいでしょう。「いかがお過ごしでしょうか」のちょっとしたあいさつでもいいのです。

(水主町教会主任司祭)

みことばにふれて160

古里 慶史郎 神父
(フランススコ会、本原教会)

フランススコ会の修道司祭として本原教会付きの修道院に赴任して、一年が経ちました。教区の神父様方をはじめとして修道士、シスター方や信徒の皆様が長崎教区の教会のために積極的に奉仕して働いておられることは、私にとつても、とても大きな刺激となっています。

それから私が赴任した昨年は、長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産が世界遺産として登録されたこともあり、長崎の信仰の歴史を勉強できることにとっても大きな喜びも感じています。フランススコ会としても、国の内外から多くの巡礼者をお迎えしています。特に外国からのお客様は、二十六聖人ゆかりの西坂の丘に立たれることを「長年の夢でした」と言ってお涙を流される方も少なくありません。それから先日は、アメリカから二人のシスターをお招きしました。一人は純粋なアメリカ人、もう一人は日本生まれの日系アメリカ人のシスターでした。

はととてもとても象徴的・印象的で心に残る姿でした。そういう私が去年、最も感動した出来事の一つが、永井隆博士の奥様の緑さんの存在を知ったことです。博士がレント

ゲン撮影で放射能を浴び続けた結果、急性白血病で余命三年という事実を奥様に告げられた際には、はたと息をのみ、続けて「生きることも、死ぬことも、みな、神さまのみ業のためにね」とおっしゃった。この一言の裏に、浦上の信徒の方々の日々の信仰生活や祈りが、どれほどマリア様やイエス様の生涯と一致していたかを感じることが出来ます。マリア様の「フィアット」(ルカ1・38)、イエス様の「ゲッセマニ」(マルコ14・36)という言葉とおなじ信仰の言葉を、毎日の生活を淡々と生きていらつした一信徒の女性が、人生の困難な瞬間にためらいもなく口にするのができるということ。今でもこうした信仰が長崎の教会や信徒の皆さんの中に生きていっていると感じます。私もこのおなじ信仰共同体の空気の中で、宣教を始めたいと思っています。

短 信

〈お告げのマリア修道会の事業所の閉鎖など〉
今年3月31日をもって事業所の閉鎖などが相次いだ。次の通り。▼下五島(水ノ浦小教区)の白百合愛児園、山内保育園、川原保育園の3園を閉鎖し、楠原に百合愛児園を開設▼上五島(浜串小教区)の福見保育園と特別養護老人ホーム福見の園を閉鎖し、社会福祉法人清和会に無償譲渡▼佐世保(黒島小教区)の黒島デイサービスを閉鎖し、有限会社旭豊栄に無償譲渡。

〈第142回クルシリヨ〉
5月2日(木)〜5日(日) イエズ会立山修道院で中村倫明師の指導のもとクルシリヨが開催され、15小教区22人(男性7・女性15)が参加した。参加者は次の通り。城山1、中町1、飽の浦1、小ヶ倉1、深堀1、滑石2、時津1、諫早1、相浦1、三浦町3、俵町1、平戸3、上神崎3、田平1、浜串1。

〈県議〉
深堀 浩 長崎(浦上)
溝口美英雄
佐世保・北松浦(大崎)
西川克己 平戸(紐差)

〈市議〉
深堀義昭 長崎(浦上)
中村俊介 長崎(浦上)
五輪清隆 長崎(浦上)
竹田雄亮 長崎(浦上)
平野 剛 長崎(浦上)
中里泰則 長崎(浦上)
萩原 活 長崎(木鉢)
宮田真美 大村(水主町)
山北正久 大村(植松)

〈町議〉
金子 恵 長与(長与)

マイホームの美容と健康に! (有) 山 川 塗 装
有限責任中間法人 全国住宅火災防止協会
長崎県建物営繕工事業協同組合理事
代表取締役 ベトロ 山川 進
佐世保市原分町1715-5
TEL(0956)49-3330 FAX(0956)49-8729

主の平安 カトリック式葬祭・飾付一式
(有) 栄光式典社
代表取締役 ヨハネ 西村 勇二
長崎市辻町7-18 TEL(095)844-4011
24時間営業 FAX(095)843-9896

白蟻調査無料・駆除予防工事5ヶ年保証付
白蟻防除施工士
大田白蟻研究所
代表者 大島和彦
(〒850-0811) 長崎市矢の平1丁目14番15号
長崎 095-822-8436
FAX 095-822-8488

世界平和へ祈りを…
明治石材
長崎本店 長崎市城栄町13-1
大村店 大村市赤佐古町287番地
HP http://meijisekizai.shopinfo.jp

注文家具の店 家庭祭壇・聖具・祭壇・長椅子・朗読台
佳織木工所
kaori-mokkousho.com
〈家庭祭壇ギャラリーOPEN パンフレットもご紹介します。〉
〒857-0032 佐世保市宮田町7-7
☎0956 (23) 1867 代表 ラウラ・ピクニア 濱口 佳織

長崎カトリックセンター前 長崎市上野町1-5
TEL 095-845-6175
医療法人 平田クリニック
院長 ヨゼフ 平田哲也
内科・循環器科・入院可
通所リハビリテーションあり